

「マップコンテストの10年を振り返って」

吉 越 昭 久

立命館大学文学部 特別任用教授（名誉教授）

立命館大学歴史都市防災研究所が主催する事業の一つとして、「夏休みにみんなでつくる地域の安全安心マップコンテスト」（以下、マップコンテストという）があり、今年度で10回目の事業を行うことができた。マップコンテストは、文部科学省学術フロンティア推進事業などの一環として開始されたものである。この事業を立ち上げた者の一人として、10年にわたり継続することができたことに深い感慨を覚える。マップコンテストの主役である全国・全世界の小学生とその保護者、それを指導された小学校の先生方、この事業に援助していただいた行政・企業・報道機関などの協力がなければ継続は難しかったし、何よりも歴史都市防災研究所の担当者の地道な努力がその背景にあった。これらの方々に心より感謝申し上げたい。

防災や防犯の情報を提供する場合、文字よりも地図の方が受け手に理解されやすい。本研究所では、地域住民が一方的に防災情報の受け手になるのではなく、とりわけ次世代を担う小学生にそれに関する地図を作成してもらうことで、各地域においてより防災・防犯に興味を深めることができると考えた。このような目的をもって、歴史都市防災研究所（当時は、歴史都市防災研究センター）ではマップコンテストを企画し、2007年度より継続した事業にしてきた。各年度の実施結果や課題については、担当者が本研究所の刊行物である『京都歴史災害研究』に執筆しているので、参照していただけたら幸いである。

マップコンテストは、大学の研究所が行っている事業であるため、実施やその結果を公開することは勿論のことであるが、その分野に関する研究を行わなければならないことはいうまでもない。研究面では、充分とはいえないが、小学生の作成した地図において危険だと指摘された場所について、現地を確認しその解決策などの検討を地元の消防や警察などに行ったことがある。このような研究としての取り組みも必要となろうが、マップコンテストが今後とも継続した事業になることを期待したい。

防災や防犯だけでなく環境なども含めると、行政、教育機関、企業、団体などが主催する小学生を対象にした地図のコンテストは、本研究所のマップコンテスト以外にも多く行われている。国土交通省国土地理院では、それらをまとめて全国規模でのコンテストを実施している。ここ数年の間、マップコンテストにおいて優秀賞などに選ばれた地図をこのコンテストに送っているが、そこでも賞に選ばれた実績がある。全国の各コンテストにはそれぞれ明確な目的があり、長い歴史の中で教育的な効果をあげているものもある。今後、これらの実施主体などと連絡をとりあって、本学のマップコンテストをより発展させていかなばならないだろう。